

越前 福井

近松が生まれたまら

(福井県福井市)

福井市は近松が生まれたまちです。近松の父は福井藩の藩士であつたという記録があり、近松は福井で誕生したと考えられます。

正保二年(一六四五)、福井藩の分家として吉江藩しやうほうが成立し、この時父は吉江藩士となりました。近松は承応二年じやうおう(一六五三)に福井で生まれ、明暦元年めいれき(一六五五)、一家で吉江に移つたと考えられます。

福井駅前まへの北の庄通りには北の庄城址柴田神社、市街地中心の福井城跡に県庁や市民の憩いの地中央公園があります。

柴田神社は、明治四十二年(一九〇九)に、柴田勝家しばたかついえ



福井城跡(福井県庁)

を祀り北の庄城本丸跡に創建されました。境内社に稲荷神社があり、平成十年（一九九八）には、お市の方の三姫（茶々、初、江与）を祀る三姉妹神社が創建されました。

天正三年（一五七五）、柴田勝家が北の庄に入国し、北の庄城を築城しました。かなり大きな城であったようですが、天正十一年、豊臣秀吉に攻められ落城しました。妻のお市の方（織田信長の妹）や家臣も城と運命をともしました。毎年春には「福井時代行列」で、勝家やお市の方に会うことができます。

その後慶長五年（一六〇〇）、徳川家康の次男結城秀康が福井藩主となり、同十一年に築城、城下町を整備しました。現在の福井市街の基礎はこの頃に整ったといえます。寛文の大火によつ



福井市街



北の庄城址柴田神社

て城はほとんど消失しましたが、福井の名の起りとなった「福の井」と呼ばれる井戸跡が天守台下にあります。

市の東部一乗谷いちじょうやには、南北朝時代に朝倉氏が居を構え、城下町を形成しました。天正元年、織田信長によって滅ぼされましたが、現在は国の特別史跡に指定され、町並が復原されています。その奥には、佐々木小次郎が「つばめ返し」をあみだしたと伝えられる一乗滝があります。

市街地の南西には、足羽山があります。継体天皇像や、古墳群、たちはなの橘 曙覧記念文学館、郷土歴史博物館、自然史博物館などがあり、また、春には桜、初夏には紫陽花あじさいが咲き誇ります。フィールドアスレチックとミニ動物園を備えた遊園地や、植物園もあり、自然を満喫しながらのんびりと散策するのにもってこいの公園です。